



棟門(左)、櫓門(右)と枅形の石垣で形成されている山里口御門

山里口御門

福井城本丸の西側を守る門として築城当初に造られ、「てんしゅだいしたもん天守台下門」とも呼ばれた。寛文9年(1669)の大火で焼失。その後再建された。天守台近くの高石垣に挟まれた場所にあり、2階部分に櫓を載せた櫓門と、2本の柱とその

上部をつなぐかぶき冠木で屋根を支える棟門、枅形石垣の上に建つ土塀からなる枅形門の構造。古写真や古絵図の調査、発掘調査などに基づいて平成30年(2018)に復元された。



櫓の内部は、鉄砲や弓、槍などを保管する武具庫として使用。また、土塀には鉄砲狭間や矢狭間が開けられており、棟門と櫓門と周囲の石垣に囲まれた方形の空間(枅形)に誘い込んで敵を迎え撃つ防衛力に優れた構造だった。



櫓門の2階には、御門の歴史や復元過程を紹介するパネルなどが展示されている。御門の復元際には、ふるさと納税による寄付のほか、笏谷石やヒノキの寄付などの協力があった。

備忘録

忘れんように書いとまねー

誰かに伝えたい情報をメモしたり、スタンプを押したり、使い方はあなた次第。自分だけのオリジナル歴史手帳を作成しましょう。

- ✎ 櫓門の瓦や壁板に復元の際に募金をした方の名前が書いてある。
- ✎ 4月1日、花見ついでに見学。門をくぐると殿様気分を味わえた。

豆知識

笏谷石がふんだんに使われた福井城

復元された門の屋根に使われているのは、笏谷石の石瓦。屋根に石瓦が使われること自体が非常に珍しいうえに、瓦のサイズも一般的な城に使用されるものの倍の大きさとなっている。さらに塀にまで笏谷石の板が貼ってあるのも福井城ならではのポイント!

福井県福井市大手3-17-1
櫓内展示室 7時~18時
(積雪時、荒天時は休館)
※門は終日開放



2

御座所から本丸へ藩主が登城する際に通った屋根付きの御廊下橋

お ろ う か ば し 御廊下橋

全国でも珍しい屋根付きの橋で、本丸の西側に架かっている。藩主の居住施設は御座所ござしょと呼ばれ、築城当初は本丸御殿にあったが、5代藩主・昌親まさちかの代に西三ノ丸（現在の福井市中央公園）に移され、藩主は御座所

から御廊下橋をわたり、山里口御門（p6）を
通って登城した。現在の御廊下橋は、明治初期の古写真をもとに、福井城築城400年記念事業の一つとして平成20年（2008）に復元された。



福井城は全国の諸大名が工事を手伝う「天下普請」で築城された。天下普請の場合、大名や石工が工事の受け持ちを明確にしたり、運搬中の混同を防いだりするため記号、家紋を彫る例が多く、福井城の石垣にも400種余りの刻印が残されている。



明治初期の古写真（福井市立郷土歴史博物館所蔵）。福井城本丸西側の内堀とそこに架かる御廊下橋を、南の方から撮影したもの。写真左端にある屋根の付いた小さな橋が御廊下橋。

備忘録

ちょっとし書いとくといいぞー

豆知識

橋の調査は恐竜博物館のおかげ！

復元整備の際、橋の下の水を抜いたら堀に沈んでいた木製の橋脚きょうきゃくが出現。その調査を福井県立恐竜博物館の植物の調査チームが担当し、橋脚の樹種が判明さきょうきやく！しかし既に部材発注後だったため、御本城橋の橋脚の栗材を参考に復元されたそう。

福井県福井市大手3-17-1



福井城天守台にある井戸「福の井」

福の井

福井城の築城当時から天守台にあったとされている井戸。安永4年(1775)の絵図にも「福井」と記された井戸が描かれている。「福の井」は、昭和23年(1948)の福井地震で崩壊はまぬがれたが、井戸の形が大きく歪んだ

ため、震災後に井戸枠が大きく作り変えられた。平成29年(2017)に井戸石組や、井戸枠を震災前の状態に戻し、上屋や釣瓶も整備された。井戸の深さは約5m、水深約2mで、今も清らかな水をたたえている。



福井城天守のイメージ

築城当時の福井城は、天守台を含め高さ約37m、四層五重の雄大な天守を持っていたと言われる。天守は、寛文の大火で焼失し、以降再建されることはなかった。



「福の井」がある福井城天守台に隣接する小天守台。石垣の一部が大きく崩れ、歪曲しており、福井地震の爪痕を今に伝えている。

備忘録

おもっしえかったこと書きねや

豆知識

「福の井」が福井って本当？

「福の井」が、福井の名の由来って本当？ 残念ながら、寛永元年(1624)、3代藩主・忠昌が「北庄」の名は敗北につながるとして「福居」に改名し、1700年頃に「福井」になったとの説が有力。でも、福井の語源説が出るほど、福の井が特別な井戸だったのは確か。

福井県福井市大手3-17-1
6時～18時
(積雪時、荒天時は見学不可)



4

福井城の北側の外堀に設けられ、防備を固めていた舎人門

とねりもん 舎人門

福井城に四十数か所あった門の一つで、北側の外堀に面した門。幕末期の城下を描いた絵図にもその名が登場する。福井市立郷土歴史博物館の建設に先立つ発掘調査で堀跡や石垣、土居、門の礎石などが見付き、

発掘成果や絵図などをもとに、木造瓦葺で両脇に屋根のある高麗門こうらいもんという形式で平成16年(2004)に復原された。高さは約6m、幅は約10m。



舎人門の屋根工事では、越前赤瓦も復原された。越前赤瓦とは、江戸期から作られた越前産の瓦。鉄分を含む釉薬を塗って焼くため表面が赤くなる。



舎人門の発掘調査では、南東の柱の位置から笏谷石の礎石が出土。今も現場で見られるようになっている。そろばん玉のような形は、ほかから転用して礎石に使ったからだという。

備忘録

大事なことを書いておこっさ

豆知識

箱館奉行所と同じ瓦の舎人門

舎人門の復原で復活した越前赤瓦。その技術は、平成22年(2010)に北海道函館市の「五稜郭跡」に復元された「箱館奉行所」に活かされた。奉行所の赤い屋根は箱館で最期を遂げた新選組の土方歳三も見たかも。

福井市立郷土歴史博物館
福井県福井市宝永3-12-1
9時～19時
(11月～2月は17時まで)
※門は終日解放
※入館は30分前まで
TEL:0776-21-0489



福井市立
郷土歴史博物館HP



5

池と数寄屋造りの屋敷が調和し、素晴らしい景観の養浩館庭園

ようこうかんていえん 養浩館庭園

松平家の別邸。3代藩主・忠昌の時代に、城下を流れる芝原上水を引き込んで池を造り、「御泉水屋敷」になったと考えられる。今のよ
うな姿に整えられたのは7代藩主・吉品(5代藩主・昌親と同一人物)のときとされる。昭和

20年(1945)の福井空襲で建物は焼失したが、庭園は良好な状態で残り、昭和57年(1982)に国の名勝に指定。これを機に庭園の修復と数寄屋造りの建物の復原が進められ、平成5年(1993)に完成した。



発掘された遺構の上に直接建築するという画期的な手法で復原。屋敷から庭を眺める視線の高さが当時の状態に保たれているため、庭と屋敷の見事な一体感を堪能できる。



養浩館庭園では毎年秋の紅葉シーズンに合わせて、庭園のライトアップが行われる。約50基の照明が池の周囲の木々を照らし、日中とはひと味違う幻想的な光景を楽しむ。

備忘録

ここに書いとくと、後で役に立つんですって

豆知識

春嶽が名付けた「養浩館」

「養浩館」の名は明治17年(1884)、松平春嶽が命名。「人に元来そなわる活力の源となる気」、転じて「大らかな心持ち」を育てることを意味するようになった孟子の言葉「浩然の気を養う」に由来すると言われる。春嶽はネーミングのセンスも抜群!

福井県福井市宝永 3-11-36
9時～19時
(11月～2月は17時まで)
※入園は30分前まで
TEL:0776-20-5367



養浩館庭園HP



6

モダニズム建築で目を引く福井神社。大鳥居越しに拝殿を望む

ふく い じん じゃ 福井神社

16代藩主・松平春嶽^{まつ}を祀るため昭和18年(1943)に創建。社殿は総檜造りだったが2年後に福井空襲で焼失した。昭和32～41年(1957～66)に拝殿、本殿、大鳥居などを再建。木造の神明造りの伝統様式を鉄筋コンク

リートで再構築したモダニズム建築で、国際学術組織DOCOMOMO日本支部の名建築リストに選定された。摂社の恒道神社には、春嶽の側近として活躍した中根雪江や橋本左内、鈴木主税が祀られている。



福井空襲を生き抜いたイチョウの木。市の天然記念物に指定されている。イチョウの木のそばにある福井神社と書かれた石碑は、福井地震で堀に沈んだものの、その後引き上げられ、今の場所に置かれた。



境内にある松平春嶽像は昭和49年(1974)に建てられた。絵馬殿には春嶽の福井初入国や左内を藩校明道館の学監同様心得に抜擢した場面などを描いた4枚の絵画が掲げられている。

備忘録

ここには気楽に書いっけ

豆知識

かわいい御朱印はいかが？

2019年から始めたのが、毎月デザインが変わる御朱印。福井の旬の特産品や観光資源などをモチーフに、自作の消しゴム印でカラフルにデザインした御朱印が評判で、県内のみならず県外からの参拝者も増えた。御朱印帳を持って福井神社へGO！

福井県福井市大手3-16-1
社務所 9時～17時
TEL:0776-22-7662
福井神社 御朱印/500円～



7

ごんげんづく
壮麗な権現造りの佐佳枝廼社拝殿

さ か え の や し ろ

佐佳枝廼社

明治6年(1873)に結城秀康の偉業を称えて祀るにあたり、16代藩主・松平春嶽が佐佳枝廼社と命名した。徳川家康公、秀康公、春嶽公が主祭神。寛永5年(1628)、福井城内に鎮守として東照宮(徳川家康公)を祀ったのが始まりで、

福井空襲や福井地震で焼失したが、京都市下鴨にある三井家祖霊社を譲り受け、拝殿として昭和24年(1949)に移築復元された。現在の社殿は周辺一帯の再開発に伴い平成4年(1992)に完成した。



境内にある、春嶽の側近・中根雪江の顕彰碑。雪江の友人・勝海舟の撰文染筆によるもので、篆額は春嶽の揮毫。明治25年(1892)に建立され、福井地震で倒壊したが、修復・再建された。



新型コロナウイルス流行をきっかけに、令和2年(2020)5月から始まった「祈りの千羽鶴折り」。これまでに集まった折り鶴は約15万羽にのぼる。

備忘録

いっぺん何でも書いとこっさ

豆知識

深い福井人の春嶽公愛

明治時代、「別格官幣社^{ベツカクカンペイシャ}」が創設された。既に別格官幣社であった東照宮の祭神・家康公を祀る佐佳枝廼社はその社格に列することができる運動が起こり、新たに別格官幣社として福井神社(p16)が創建された。

福井県福井市大手3-12-3
社務所 8時～17時
TEL:0776-27-2754
佐佳枝廼社 御朱印/800円



佐佳枝廼社HP

※国家に功績のあった人物を祀る神社に与えられた社格のこと。原則として一人物につき一社のみ定めることができた。



北庄城のあった場所に鎮座している柴田神社

きたのしょうじょうし しばたじんじゃ 北庄城址・柴田神社

いっこういっき
一向一揆平定後に織田信長から越前統治を任せられた柴田勝家は、天正3年(1575)に北庄城の築城に着手。安土城あづちじょうをしのぐ日本最大規模ともされたが、賤ヶ岳しづがたけの戦いで羽柴(豊臣)秀吉に敗れ、天正11年(1583)に

自ら城に火を放ち、妻のお市と共に自害した。勝家公とお市の方を祀る柴田神社は北庄城の跡地にあり、平成5年(1993)からの発掘調査では石垣や堀跡、日向門ひゅうがもんや土居等の遺構を確認。現在は「北庄城址」として整備されている。



境内には勝家像がある。また、北の庄城址資料館には、北庄城の遺物や鬼瓦、勝家の時代に造られた九十九橋つくもばしに使われたという石柱などが保存されている。



勝家像の脇には、信長の妹として波乱に満ちた生涯を送ったお市の方像、三姉妹像が建てられている。三姉妹像は中央が三女の江、左が長女ちやちやの茶々、右が二女の初はつ。

備忘録

ここに書いとくと、ひっで便利やぞ

豆知識

女性に人気!美(モテ)祈願

戦国一の美女と伝わるお市の方の御神徳を頂く「美(モテ)祈願」が、柴田神社で密かなブームに。授与所で「モテ祈願用紙」を受け取り、願いごとを記入。参拝したらお市像に挨拶し、祈願所で用紙を水に浮かべて祈願する。これで最強のモテ美人・お市の方のパワーにあやかれるかも!?



柴田神社HP

福井県福井市中央1-21-17
授与所 9時~17時
TEL:0776-23-0849
柴田神社 朱印・浄書/500円、奉書/600円
北庄城 城印/1,000円
北の庄城址資料館 9時~18時



西洋の意匠と日本の伝統技法が融合した独創的な建築のグリフィス記念館

福井市グリフィス記念館

明治初期に福井藩校明新館の教師として招かれた米国人ウィリアム・E.グリフィスの邸宅の外観を当時の写真などを基に復元した建物。県内で最初につくられた洋風建築で、異人館と呼ばれた。グリフィスが福井藩の留学生・

日下部太郎と親交を結んだあと来日し、明新館で理化学を教えたことなどを、館内で紹介している。ライトグリーンの建物は、コロニアル様式と日本の伝統技法が融合した特徴的なデザインで、建材には笏谷石も使われている。



グリフィス館に隣接する「おもてなし館」の目の前にある「墮涙碑」。日下部太郎の異郷での夭折を悼んで建立された。撰文は儒学者で多くの有能な藩士を育てた吉田東篁。



グリフィス館1階のテラス横には日時計がある。グリフィス没後にサラ夫人から福井市に寄贈された日時計を復元した。台座は昭和9年(1934)のもので、感謝の意が刻まれている。

備忘録

知らなんだこと書いて、後でお勉強せなあかんわ

豆知識

クリスマスの伝道師

グリフィスが明治4年(1871)に書いた手紙には、12月24日、福井の自宅で同居していた生徒にプレゼントを贈り、翌日にはパーティーを楽しんだとの記述が。日本のクリスマス文化の原点はおそらくグリフィス。靴下の代わりに生徒が吊した足袋にプレゼントを入れたのも素敵。

福井県福井市中央3-5-4
10時～19時
(12月～2月は18時まで)
※入館は30分前まで
TEL:0776-50-2911



福井市グリフィス記念館HP



10

明治末期の架け替えまで半石半木だった足羽川に架かる九十九橋

九十九橋

九十九橋は、北陸道と足羽川が交わる要衝に架かる橋。柴田勝家の時代に、橋の南半分が石材、北半分は木材という「半石半木」の珍しい構造で架け替えられたと伝わる。橋の全長は88間(約160m)。江戸時代には名橋、

奇橋として全国的にも有名で、明治42年(1909)の架け替えまで半石半木が続いた。城下に近い北側を壊し易い木造にすることで、敵の侵入を防いでいたという説がある。



明治42年(1909)、九十九橋は木造橋として架け替えられた。橋に使われていた石の部材は福井の各地に残されている。写真は、福井市立郷土歴史博物館に展示されている橋脚。



葛飾北斎「諸国名橋奇覧 畠ちぜんふくみの橋」(福井県立美術館所蔵) 葛飾北斎の浮世絵のシリーズ「諸国名橋奇覧」には、「畠ちぜんふくみの橋」として半石半木の橋を大勢の人々が行き交う様子を描いた1枚があり、九十九橋が全国的に有名だったことがうかがえる。

備忘録

後で見直すのに、ちゃんと書いとけね

豆知識

九十九橋の恐ろしい人柱伝説

「越前若狭の伝説」(杉原丈夫編)に、柴田勝家から橋の建設に必要な石材の切り出しを命じられた息子のため、年老いた母が石棺に入り、九十九橋を守る人柱となり石材の寸法不足を補ったとの人柱伝説が収録されている。子を思う母の美談のような、こわ〜い怪談のような…

福井県福井市つくも1



居宅跡に近い幸橋南詰の広場に建つ由利公正像

ゆりきまさひろば 由利公正広場

幕末の福井藩士・由利公正^{みつおかはちろう}は福井城下毛矢町に生まれ、福井藩の財政立て直しや藩政改革に手腕を発揮。明治維新後は新政府の財政・金融政策を担当し、新政府^{だじょうかんさつ}による最初の貨幣である太政官札を発行、五

箇条の御誓文^{ぎじのていたい}の原案の「議事之体大意」も作成した。その後は東京府知事も務め、銀座通りの整備などを行った。居宅跡に近い足羽川・幸橋の南詰に平成26年(2014)に銅像を移設し、広場として整備された。



広場には五箇条の御誓文^{ごかじょうごせいもん}の原案「議事之体大意」石碑がある。由利公正執筆の「議事之大意」に福岡孝弟^{ふくおかたかちか}が加筆した「会盟^{かいめい}」を実物大でパネルに展示。「庶民志を遂げ」の書き出しが下級武士出身の由利の思いを物語る。



広場から近い幸橋南詰下流側には由利公正居宅跡の石碑がある。ここで横井小楠^{よこいしょうなん}に連れられた坂本龍馬と3人で会談したとされ、その際に龍馬が詠んだとされる歌碑がある。

備忘録

役立ちそうなこと、ぎょうさん書いといてつけ

豆知識

藩校明道館での出会い

由利の子息^{みつおかたけお}・三岡丈夫^{でん}が著した『由利公正傳』には、由利を取り巻く人々とのエピソードが記されていて、明道館(後の明新館)での橋本左内、師・横井小楠との出会いが由利に強い影響を与えたことがうかがえる。藩校がなかったら3人の出会いはなかったかも。

福井県福井市毛矢1-1



12

橋本左内の像が建ち、左内の墓や「啓発録」の石碑がある左内公園

左内公園

幕末の福井藩士・橋本左内は、大坂のおがたこうあん
が開いた適塾(適々斎塾)で医学と蘭学を学び、
遊学先の江戸では西郷隆盛らと交友を結んだ。
オランダ語、英語、ドイツ語を学び、世界の情勢
に精通していたことを買われ、22歳で藩主・松

平春嶽の側近に抜擢。福井藩の藩政改革や
將軍継嗣問題などの幕政改革に取り組み、開
国派として活躍したが、安政の大獄で捕らえら
れ、26歳の若さで生涯を終えた。昭和38年
(1963)に市民の寄付で銅像が建立された。



「稚心を去る」「氣を振う」「志を立てる」「学に勉める」
「交友を択ぶ」の5訓からなる「啓発録」を橋本左内
が14歳で著したことになるが、県内の中学校では
生徒が誓いを立てる「立志式」が行われている。



左内公園には、橋本左内や両親の墓がある。安政
の大獄で処刑され江戸の回向院に埋葬されたが
文久3年(1863)にこの地に移葬されたという。

備忘録

気いついたこと何でも書いておこっせ

豆知識

左内先生の先祖は有名人!?

医学を学んだ左内の父は福井藩の医師で、弟は
日本赤十字社病院の初代病院長。医師のイメ
ージが強い橋本家だが、そのルーツは幸若舞の一
族！ 幸若舞は越前町西田中発祥の室町時代
に流行した曲舞で、織田信長も舞ったといわれ
る。左内が幕末のスターになったのも納得。

福井県福井市左内町7-7
※令和6年度から隣接する足羽ポンプ場の更新
工事を行うため、公園の利用ができなくなります。



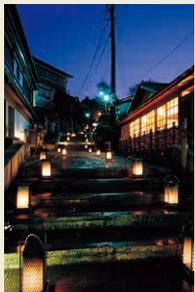
13

石段に笏谷石が使われている愛宕坂

あ た ご ざ か
愛宕坂

足羽山の登り口にある趣のある石段坂。階段の数は145段、全長165mになる。「愛宕坂」の名前は、越前朝倉氏が滅びた後、柴田勝家あたらごだいごんげんしゃが一乗谷にあった愛宕大権現社あたらごだいごんげんしゃ（現在は足羽神社あすはごうしに合祀）を足羽山へ移したことに由来

する。江戸時代、愛宕大権現社への参道として知られ、歴史ある料亭や茶屋が立ち並び栄えていた。急勾配でぬかるみやすかったため、文政11年(1828)に豪商・松岡屋吉兵衛まつおかのきちべえが私財を投じて階段を整備した。



毎年、春先の桜が咲く時期に合わせて愛宕坂は行灯でライトアップされる。坂の途中には福井市橘曙覧記念文学館、福井市愛宕坂茶道美術館、料亭、剣道場などがある。



愛宕坂をのぼると「足羽神社」がある。越前平野の大治水工事を行ったとの伝承が残る継体天皇けいたいてんのうが足羽山に宮を建て、坐摩神いかさりのかみを勧請したのが起源とされる。

備忘録

書くこと、よーけあるんやわ

豆知識

春夏秋冬楽しめる愛宕坂

福井市橘曙覧記念文学館がある場所には、松平春嶽が名付けた料亭「五嶽楼」があった。その由緒にちなんだ文学館の五嶽テラスでは、春は桜、夏は足羽河原の花火、秋は紅葉、冬は雪景色と四季折々に変化する風景を楽しめる。晴れた日には白山連峰が見えるかも。

福井県福井市足羽1-6-37



福井城本丸御殿の建物を移築した瑞源寺の本堂

瑞源寺

足羽山の北西のふもとにある瑞源寺^{りんざいしゅう}は臨済宗妙心寺派^{みょうしんじは}の禅寺であり、5代藩主・松平昌親(7代藩主・吉品と同一人物)の菩提寺^{ぼだいじ}。背後の山腹には昌親と母・高照院^{こうしょういん}の墓所がある。本堂と書院は、福井城本丸御殿から「本丸御

小座敷^{こざしき}」「大奥御座の間^{おおおくござま}」をそれぞれ移築しており、現存する唯一の福井城の建築遺構。平成19～23年(2007～2011)に解体修理が行われた。秋には萩の花^{はぎ}が境内に咲き誇り「萩の寺」としても親しまれている。



瑞源寺本堂は、14代藩主・松平斉承^{まつだいらなりつぐ}が、天保元年(1830)に造営した福井城本丸御殿の「御小座敷」を、万延元年(1860)に移築したものだ。



瑞源寺書院は福井城本丸御殿の「大奥御座の間」を移築。本堂は書院より早く移築された。造作材や建具にいたるまで「大奥御座の間」当時のもので、室内には気品が漂う。

備忘録

ちやがちやがになってもだんねで、書いときね

豆知識

瑞源寺で仏教体験はいかが？

瑞源寺では「福井城の御殿であなただけの仏教体験」を提供して好評。1日1組限定なので、写経や坐禅をはじめ、庭の白砂に線を引いたり、法話を聞いたり、仏教の基礎を学んだり、参加者の興味に応じて様々な体験ができる。歴史ある空間で仏教に触れる、癒しのひとはいかが？

福井県福井市足羽5-10-17
9時～17時 ※本堂、書院のみ
福井城本丸御殿 御城印 / 300円
TEL:0776-35-1868
※見学・体験の際は要連絡



瑞源寺HP